

# 幹部

## ごあいさつ

学長 中山 智子

白鳳短期大学同窓生の皆様におかれましては、益々お元気でご活躍のことと思います。

卒業生の皆様におかれましては、昨年に続き環境(感染症)と絶えず向き合っている生活が続いています。卒業生の皆様は、福祉、教育、医療、看護の分野で、大きな役割を担って活躍して頂いていることと存じます。皆様のご活躍、頑張りに心から感謝申し上げます。

これらの環境は、人間が自然界との付き合い方を変えるよう、自然からのメッセージを受けているようにも感じます。

このような環境の中、学校生活、講義におきましては、感染対策を徹底しながら積極的に対面授業に力をいれ取り組んでいます。あらためまして、在学生とともに環境とは、人間とはについて追究していくことの重要性を再認識しています。



本校の教育として、人間力を中心に考える力を大切に「ライセンス習得」の目標に向かって在学生は、日々努力をしています。また、わたくしたち教育者は、人間力を柱として「常に、教育になるよう」「学生の思考を動かし考えるちからを養う」ことが出来るよう、学生ともに、教職員がひとつになり積極的に教育に取り組んでいます。

今後も地域貢献を目標とする短期大学が、ますます発展するよう、社会に貢献できる教育を目標として取り組んでまいります。

感染症がおさまり環境がととのった後には、ぜひ人生の先輩として卒業生の体験等のお話を白鳳短期大学の在學生に、語り掛けに出向いていただけますでしょうか。

お会いできる日を楽しみにお待ちしております。

毎年、数百名の卒業生が、学び舎を後に新しい人生のスタートをきり社会で活躍することとなります。同窓会の皆様とともに本校で、教育出来ましたらどんなに素敵なことかと大きな希望と期待を抱いております。卒業生の皆様、母校で、教育のチーム(教員)として教育に場を移して一緒に教育していただける日を熱い思いでお待ちしております。

皆様方のご健康と益々の同窓会の御発展を心より祈っております。

## 卒業生の皆さんへ

副学長 東 孝 信



卒業生の皆さん、それぞれのおかれた立場や環境で存分に活躍されていることと思います。私は、2021年4月から副学長に着任しました東孝信と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、我が白鳳短期大学は、2022年度に創立25周年を迎えます。これもひとえに、卒業生や現在在学中のみなさん、本学に関わっていただいたすべての方々のおかげと感謝申し上げます。

現在の日本社会は、急速に「少子高齢化」と「核家族化」が進み、次代を担う子供たちの基礎を築く教育と、「多様化」と「専門化」した医療・福祉の分野では、深刻な人材不足となっています。ますます人材育成が急務の課題となっています。資源のない日本において人材は重要な資源です。そしてこれらの分野は誰もが幸せに生きる社会の実現において必要不可欠なところです。

また、世界では2019年から新型コロナウイルス感染拡大はとどまるところを知りません。感染が一時的に収まっても新種株が次から次へと出現し、社会に猛威を振るっています。これによってこれまで私たちの暮らしに浸透してきた生活様式が大きく変わろうとしています。先行きが見えない将来に向かって、何を信じて生きていけばいいのか、わからない時代でもあります。

いまこそ本学の建学の精神に回帰するときです。本学は、これまで以上に、「人間とは何か」という問いかけを探求し、人間はどうあるべきか、人間はどう生きなければならないのか、自己の生き方を真摯に見つめ、幅広い視野で物事をとらえ、変化に柔軟に対応できる対応力が求められています。広い国際性と豊かな人間性を併せ持ち、専門的知識を積み、実践力を身に着け、プロフェッショナルとして社会に貢献しうる人材を輩出することが社会から課せられた本学の使命、時代の要請と考えます。

私たち、白鳳短期大学の教育に携わる者は、卒業生の皆さんが胸を張って母校を語れる短期大学たらんと努力を惜しみません。どうか皆さんも本学の卒業生としての高い誇りをもってそれぞれのおかれた立場と環境の中で最善を尽くしてください。

皆さんの益々の活躍と発展を心から祈っています。

# 同窓会会長挨拶

こども教育専攻卒業 同窓会会長 前田瑞紀

白鳳短期大学同窓会の会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。また、平素は同窓会活動に深いご理解とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

今年度、同窓会会長を務めさせていただきます前田瑞紀と申します。現在は、大阪市天王寺区にある大阪教育大学に3年時編入をして在籍しています。

今年は、昨年に引き続き新型コロナウイルスが猛威をふるい対面での授業が難しく、授業の多くがリモートでの授業でした。そのような状況であるため、大阪教育大学に入学してからは不安が募る日々でした。7月頃になると、状況が少し緩和され対面での授業が行われるようになりました。はじめは、見知らぬ人が多かったり、環境に馴染むことができず、息苦しさや不安がありました。しかし、多くの在学生の方が新編入生と在学生を繋ぐ企画をしてくださったり、様々なことを親身に教えていただき、少しずつ不安がなくなり、そして交友関係が広がって行きました。

今はオミクロン株という新しい種のコロナウイルスの発現によりまだまだ気が抜けない状況にありますが、このような状況だからこそよりいっそう気を引き締めて自分の夢に向かい熱心に勉学に励んでいこうと思います。

大阪教育大学の3年時編入は夜間学部であるため、空いている昼間は非常勤講師として小学校で働いています。よく、大変だろうと言われることがあります。確かにしんどく、大変な時はありますが、日々色々なことを学べるのが楽しく、毎日がとても充実しています。

白鳳短期大学での2年、大阪教育大学での3年で学んだことを生かし、教員採用試験合格に向け、これからも頑張っていきたいと思っています。

もうすぐ、編入して1年が経ちます。4回生になり、教員採用試験など、様々なことを考えていくようになっていくと思いますが、小学校教諭という夢を目標に、日々精進してまいりたいと思います。

末筆ながら、同窓会会員の皆様のご活躍、ご健勝と母校白鳳短期大学の益々の発展をお祈り申し上げます。



---

# 連携校

---

## 大和大学

2023年4月「情報学部」開設へ。

前例の無い驚異的なスピードで急成長中です！

大和大学 駅近ワンキャンパス総合大学へ。2021年4月「社会学部」の開設に続き 2023年には文理融合型の「情報学部」を開設予定。世の中のあらゆることがデータ化され、大量の情報があふる現在。日常にあふれる大量の情報に惑わされず、しっかりと使いこなす必要があります。

情報学部では、ますますデジタル化されていく社会から求められる「情報、データ、AIを使いこなせる人材」を育成します。まもなく学びの拠点となる情報学部棟の建設が本格的にスタートします。情報学部が開設されることで6学部8学科を有する総合大学になります。

2023年は開学10周年。わずか10年でここまでの成長を遂げた大学は歴史上存在しません。10周年を記念し様々なイベントも実施予定。ご注目ください！



# 西大和学園中学校・高等学校

## 次代を担うリーダーを育成するために

1986年（昭和61年）西大和学園高等学校（共学）、2年後に中学校（男子）を開校。2014年に中学校も共学となりました。

1990年に初めて東京大学に合格して以来、今年は76名が進学。東大と京大（63名）を合わせた合格者数は全国で2番目の成績となりました。

西大和学園は「探究・誠実・気迫」の校訓のもと、多岐にわたる概念を横断した教育を実践し、開校から僅か20年足らずで全国屈指の進学校へと成長しました。現在は、近畿一円のみならず全国、海外からの生徒が学んでいます。また男子寮である青雲寮には「西大和学園で学びたい」という生徒が顕著に増えています。

さらに、西大和学園には進学だけではない独自の学びがあります。創立当初から、国際理解教育、伝統的 school 行事、多彩な体験学習に、生徒たちは自主的に取り組んできました。その延長線上に2002年、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受けます。2014年にスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定も受け、「生徒が独自でテーマを探し、研究し、専門的スキルやマインドを習得する」という学びのスタイルが確立されました。SGHをさらに進化させたイノベーション創発人材を育成する刺激的なキャリア教育「アクションイノベーションプログラム(AIP)」も始動。模擬国連では全国大会出場を重ね、数年前に優秀賞を受賞した世界大会出場を再び実現しようとしています。

高校から西大和学園に入学する高等部「東大・京大・国公医コース」も今春、東大現役合格17名と過去最高の頑張りを見せ、それぞれの環境で成長した生徒たちの頑張りが結実し、今春の進学実績となりました。

全国屈指の大学合格実績を支える、未来のリーダー育成のための自発的学び、先進的な学び、それが西大和学園マインドです。



# 西大和学園カリフォルニア校

白鳳短期大学同窓生の皆さん、こんにちは。白鳳短期大学の同窓生の活躍と大学の躍進ぶりを多くの先生方から聞くにつけ、遠く離れたロサンゼルスでも大変喜んでおります。

それではこの場をお借りして、私たちの学校 NAC (Nishiyamoto Academy of California) の近況について紹介させていただきます。

本校は、創立29年目のアメリカ西海岸唯一の文部科学省認定の「私立全日制日本人学校」です。学校はロサンゼルス空港から車で南に40分の距離です。ここロサンゼルスの日本人コミュニティでは、知らない人がいないまでに成長し、当地における日本人教育の一翼を担っております。

この地域は日本人がとても多く在校生のほとんどがこの地域の日系企業の駐在員の子どもたちです。幼稚園、小学校、中学校の13学年で約110人の子どもたちが在籍しております。2002年より土曜補習校を開校し、当初6名だった子どもたちが、この4月には約700名になり全日制、土曜補習校合わせ820名にも迫る大所帯になり、学校全体が活気に満ち溢れています。

また、9年前にサンノゼ（シリコンバレー）地域にも幼稚園が開園しました。NACでは、子供たちの個性を伸ばし、豊かな人間性と感性を育み、思いやりのある真の国際人の育成を目指すことを教育目標として取り組んでおります。また、NACは海外教育センターを併設しており、白鳳短期大学の学生の皆さんの海外研修プログラムの企画に携わり、また、研修地でもございます。創立当初より、白鳳短期大学と深い関わり合いをもち続けております。感染対策が落ち着き、早く研修が再開できることを願っております。

これからもこのカリフォルニアで、日本の白鳳短期大学の同窓生および現役学生の皆さんに負けないようにがんばる子供たちを育てていきたいと思っておりますので、白鳳短期大学の皆様方には、今後とも暖かいご支援とご声援を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。



---

# 専攻長

---

## 卒業生の皆さんへ

総合人間学科 こども教育専攻 専攻長 西川 幸利

卒業生の皆さん、元気に活躍されていますか。

昨年に引き続きコロナ感染症の影響で、世界中が翻弄されており皆さんの生活や職場にも多大な影響を及ぼしていることと思います。

本学も緊急事態宣言下では、短縮講義や分散登校を実施していましたが、6月からは通常講義を実施しております。ただ、各種実習は期間が変更するなど、学生共々、本当に大変でした。そのような中でも実習訪問に伺うと、皆さんが活躍されている様子を拝見させて頂く機会もあり、教員一同喜んでおります。

本学の学生が、皆さんの園に実習に行った際にはよろしくお願い致します。

現在、こども教育専攻は年々、小学校教諭免許取得希望者や4年制大学編入希望者も増え、教育内容も実践型演習を取り入れ、より現場で役立つ力を身につけられる講義を設けております。これからも白鳳短期大学は優秀な保育者を育成し、社会に貢献できるよう頑張ります。高校生の4年制大学志望者が増える中、本学は来年度もたくさんの方が入学が期待できます。今後も、皆さんの母校が関西一番の養成校になるよう教員一丸となって、こども教育専攻を盛り上げ頑張っていきます。皆さんもお体に留意しながらご活躍ください。

大学の近くに来られた際には、是非、お立ち寄りください。教員一同、大歓迎です。皆さんの元気な笑顔を拝見できることを楽しみにしております。



## 卒業生の皆さんへ

総合人間学科 看護学専攻 専攻長  
専攻科助産学 専攻科長  
専攻科地域看護学 専攻科長 諸喜田 美恵



白鳳短期大学同窓生の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。コロナウイルス感染拡大が続き、新しい生活様式が求められるようになって2年が経過しようとしています。卒業生の皆様、そしてご家族の皆様が、様々な形で医療の現場を支え、ご尽力されていますことに心より敬意を表し感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大は、大学教育にも影響があり、後輩たちは非対面での講義や、演習、実習と、学ぶスタイルに大きな変化がありました。そのような中でも私たち教員は学びを止めることはなく、ナイチンゲールの看護理論をもとに「看護とは」を大切に育てて参りました。来春、後輩が実習に伺った時や入職の際は、白鳳短期大学で学んだ「看護とは」を共に語り、白鳳短期大学を思い出していただければ幸いです。

最近のうれしい報告として、卒業生が母校でプロの看護師として成長し、看護師のやりがいについて後輩に話ってくれたり、家庭と仕事の両立の頑張りを報告にきてくれたりしたことです。後輩たちにとって先輩の話は、将来のビジョンのイメージにつながり、話をしてくれた卒業生もキラキラと輝いて見えました。これからも看護、助産、地域、言語に進んだ多くの卒業生が母校を訪ねてきてくれること楽しみにしております。皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈りいたします。

## 卒業生の皆さんへ

総合人間学科リハビリテーション学専攻 理学療法学課程 専攻長  
専攻科リハビリテーション学専攻 理学療法学課程 専攻科長  
専攻科リハビリテーション学専攻 言語聴覚学課程 専攻科長 高橋 秀行

卒業生のみなさん、元気に過ごしていますか。

Covid-19 の影響も少しずつ緩和され、徐々にではありますが、日常が戻ってきていると実感できるようになってきました。

「健康が保障されるからこそ、そこに日常がある」ことを忘れずに、健康に携われる職種、理学療法士・言語聴覚士として社会のニーズに応えていける人材を育て輩出していきたいと思えます。

さて、理学療法学課程では今年度の実習から臨床実習指導者講習会の修了者が指導にあたるのが必須となり、現場での指導方法がひと昔前とは大きく変わってきました。

経験則の指導から教育的な視点を取り入れた指導に変わること、臨床で学ぶことのポイントが教育者、学習者の双方にとって分かりやすいものとなり、現場に即した考え方、技術を学べる機会が増えたと感じています。これからは、この変革を元に学内での教育も見直し、さらに前進できる理学療法を OB・OG のみなさんと一緒に構築していければと思います。

実習訪問や学会などでみなさんとお会いした時は近況など語り合えましょう、楽しみにしています。



## 卒業生の皆さんへ

総合人間学科リハビリテーション学専攻 理学療法学課程 専攻長  
専攻科リハビリテーション学専攻 理学療法学課程 専攻科長 毛利 陽介



今年度から専攻長を務めております毛利陽介です。どうぞよろしくお願い致します。

皆さんお元気でしょうか。新型コロナウイルスの影響は皆さんの生活も大きく変化したと思います。大学の授業もリモートでの授業や学外での授業が難しい状況ですが、作業の楽しさが伝わってほしいと頑張っています。

実習では皆さんに学生を見て頂く機会も増えてきており、頼もしく感じております。

これからもよろしくお願い致します。

白鳳短期大学は皆さんの母校です。気軽に遊びに来てくださいね。また、学生は皆さんの臨床での経験談や勉強での取り組みの様子などを聞くことでとてもモチベーションが上がります。在学生にもいろいろ話をしてあげてください。

# 卒業生

総合人間学科 看護学専攻 林田 ねね

私は看護学専攻を卒業したのち、専攻科言語聴覚学課程に進み、今は脳外科病棟に勤めております。

入植当初はダブルライセンスという強みを活かしより具体的な、さらに一歩進んだ看護を実践していきたいと考えていました。しかし、実際は受け持ち人数も多く、検査やリハビリ、ケアとの時間が重なってしまうため早くラウンドしなければいけないと時間に追われる日々が続いていました。

患者一人に関わる時間も少なく、STの知識を活かす以前に看護を提供できているのか悩むことがありました。また、徐々に重症患者を受け持つ中で、自分が観察したこと実践した医療行為が患者の命に直結する責任の重さに耐えられなくなったこともありました。

その際にプリセプターに相談し、「自分がいま不安だという状況を理解して相談してくれていることが成長している証だと思う。できていることも増えているし、もっと自分のこと褒めてあげてほしい。自分のペースで大丈夫だよ」とアドバイスをいただきとても気持ちが楽になりました。それ以降は徐々にペースをつかみ、患者との関わる時間も増えていきました。

食事介助をする中でもSTの先生と、より具体的なコミュニケーションをとることができ自分が実践したい看護が少しずつできているのではないかと考えます。これからも成長して、「あなたなら安心して任せられる」と思ってもらえるような看護師になれるよう励んでいきたいです。



総合人間学科 こども教育専攻 溝江 夏希



私は4月から奈良県の乳児院で保育士として働いています。

主に0歳児から3歳児までの子どもたちが入所し、24時間体制で職員が交代で子どもたちを見守っています。

自分一人がずっと子どもと関わる訳ではないので、その日の子どもの様子を引き継ぎ、他の職員へ報告・連絡・相談を行うことの大切さを実感しています。

子どもに注意することが苦手と言うことを聞いてくれないということが多々ありますが、子どもの気持ちに寄り添いながら「なぜしてはいけないのか」、「どうすべきだったのか」など言葉掛けをし、理解してもらえるように伝えるということを課題として日々頑張っています。

昨日できていなかった事が今日できるようになった、より甘えてくれるようになった、など子どもの変化や成長を身近で感じることができ、この仕事にやりがいを感じています。

これからも子どもたちの幸せ、子どもの最善の利益を考え、養育できるように頑張っていきたいと思えます。

私は今、奈良県の総合病院に勤めています。  
主に整形疾患の患者様を担当させていただいています。

白鳳短期大学を卒業し1年が経とうとしています。  
学校の授業・実習だけでは学べなかったことが臨床ではたくさんできてきます。

学校でも勉強はたくさんしてきましたが、臨床の場はより勉強することが盛りだくさんです。同じ疾患をお持ちの患者様であっても、その症状は多種多様。一人の方に通用したことが、もう一人の方には通用しないことが多々あります。どうすればいいかと悩む毎日ですが充実した日々を過ごせているなど感じています。



理学療法士に限らず、セラピストは患者様の未来を担う職業であると思います。  
作業療法士・理学療法士など肩書にこだわらず、患者様一人、一人に全力で向き合い患者様の未来を患者様とともに作っていける理学療法士になりたいと思います。

私は現在、臨床実習でも大変お世話になった秋津鴻池病院に勤めています。臨床に出てから早1年が経とうとしており、少しずつ担当させていただく患者さんも増えてきました。

学生の頃は作業療法士として働いている自分が想像できず、入職してすぐも不安でいっぱいでした。正直今でも、リハビリの内容に行き詰まったり患者さんとの関わり方で悩んだりしては「向いてないのかなあ。」と落ち込んでしまう時もあります。しかし、それ以上に、実際に臨床の場に出て多くの患者さんと関わり、リハビリをすることに楽しさを感じています。



患者さんと目標を共有して、一緒に試行錯誤しながらリハビリをして、少しずつできることが増えてきた時は本当に嬉しいです。

大学で教わった「セラピストはリハビリの指導者ではなく、ともに歩いていくパートナーである」という言葉を今でもふと思い出すのですが、本当にその通りだと改めて実感しています。

まだまだ知識も技術も不十分で、患者さんや先輩に申し訳ないと辛くなる時も沢山あります。それでも、患者さんから「リハビリのおかげで、ここまでできるようになったよ。」「ありがとう。」などと笑顔で言われた時は嬉しくて、作業療法士になって良かったと思います。

苦楽を共にする同期や優しく尊敬できる先輩方、そして多くの患者さんと出会い、充実した日々を送れているのも白鳳短期大学での3年間があったからこそです。大学で学んできたことを胸に、これからも作業療法士として成長していきたいと思っています。

私は白鳳短期大学を卒業式し、今年度から助産師として病院で働いています。

白鳳で学んだ4年間では、知識と技術の統合の大切さや、患者様に関心を持って関わり、身体的・精神的・社会的側面の3側面を捉える必要性を学びました。

実際に働いてみると、ハイリスク妊産褥婦がほとんどで、病態が難しかったり、精神面や社会背景が複雑であったりと、3側面を捉えることが難しいこともあり、想像以上に幅色広い知識や技術が必要なんだと実感しています。

自身の知識不足や経験不足で不甲斐なさを感じる事も多く、落ち込む事もありますが、患者様からの感謝のお言葉を頂くことが1番の励みとなり頑張ることができています。

これからも、白鳳で培ってきた看護観を忘れず、思い描いている助産師像を実現するために努力していきます。



私は現在、中核市の保健センターで保健師として働いており、母子保健を担当してい

ます。乳幼児健診に来所された保護者への相談対応や保健指導、子どもの月齢に応じた発達の確認を行っています。また、担当地域の赤ちゃん訪問や養育支援が必要な家庭に訪問しています。

育児の経験がないためアドバイスの引き出しが少ないことに痛感する日々です。もっと知識をつけて、辛い時に寄り添える保健師を目指して頑張っていきたいと思います。



そのほか、新型コロナの陽性者に電話をして発症日や症状を聞き取り、濃厚接触者の特定や療養期間の説明などを行っています。施設内感染や家庭内感染を予防するために丁寧に保健指導することは公衆衛生の基本ですが、連日夜中まで発生届に追われて十分に疫学調査をできないことを歯がゆく思うこともあります。

コロナが収束することを願いつつ、休日を楽しみながら身体に気をつけて頑張っていきましょう！

私は、回復期病院で働いています。

入職してからは、脊髄損傷や腰椎圧迫骨折や脳卒中などの患者様を担当させていただきました。

毎日家に帰ってからも勉強し、患者様一人一人にあったリハビリを考えるということを続けています。

身体機能向上を目指しても、なかなか上手くいかなかったり、身体機能が向上した人でも社会的背景により自宅復帰できない事があったりと、悩むことがたくさんありました。しかし、先日担当の患者様に「先生が担当でよかった」と言っていただきました。この時に、今まで自分がやってきたことが少し報われたように感じました。今回のように「この人にリハビリしてもらえてよかった」と言ってもらえるように頑張ろうと思います。

これからも、大変なことや嫌になることがあるかもしれませんが、白鳳短期大学に在学していた頃からの夢である、信頼される理学療法士になるという夢を胸に、日々精進していきたいと思っています。



私は、2021年3月に白鳳短期大学 専攻科 作業療法学課程を卒業しました。そして現在自身の生まれ育った市立急性期病院で勤めています。



私がこの病院に就職しようと決めた理由は、市立病院で勤めることで、地域と医療の関係性や特性を知ることができると思ったからです。

普段は、急性期病院の作業療法士として、多職種と連携し、どれだけ早くできるADLをしているADLに移行できるか、その人らしい生活を過ごせるかを考えています。突然の入院や病気になり、受け入れきれない患者様や難病を抱えている患者様など様々な方に関わっています。

そんな私の将来の夢は、町づくりです。現在の病院に勤め、地域と医療の関係性や特性を知ること、自身の生まれ育った町を理解し、作業療法士の考え方を活かして、乳幼児から高齢者までが住みやすく、孤独でない町をつくりたいと考えています。そのため現在は、私の住む町の商店街の

活性化計画をたて、2022年から実行する予定です。

作業療法士は、医療や介護の現場だけではなく、その専門性はどんな分野・場所でも発揮できると思っています。作業療法士として新しい働き方を提案し、より多くの人に自分らしく生活していただける町を作りたいです。

私は現在、兵庫県川西市にある急性期病院で言語聴覚士として働いています。

主に脳血管障害により生じる高次脳機能障害から、内部疾患により生じる嚥下障害など様々な患者様のリハビリを担当させて頂いています。

私は他大学で理学療法士の免許を取得してから、白鳳短期大学の言語聴覚学課程に進学しました。白鳳短期大学では様々な資格を持つ方と共に勉強をしたことで、専門としている知識や情報共有することの大切さについて学びました。

臨床現場では様々な場面で情報共有の大切さを感じることがあります。私は急性期病院で働いており、患者様の病態やADLが変化しやすい時期でもあるため、患者様に合ったリハビリを提供するためには、日々病棟の看護師との情報共有が大切になります。

私は言語聴覚士と理学療法士の2つの職種について勉強をただけではなく、在学中様々な資格を持つ方との情報共有を経験したことで、臨床場面での他職種との情報共有に役立っていると感じています。

技術や患者様との関わり方など、日々の臨床場面で学ぶことが多くあり大変なこともありますが、職場の先輩方に助けて頂きながら楽しく働いています。

これからも言語聴覚士と理学療法士の2つに資格を活かし、患者様に合ったリハビリを提供できるように日々努力したいと思います。また患者様の気持ちを考え、どんなことでも頼って頂けるような言語聴覚士を目指したいと思います。

